

遠隔面接 4校のチャレンジ

有朋高校における研究開発学校の取組
～遠隔教育の可能性を求めて～

用語の確認

遠隔教育

遠隔システムを活用した授業

対面式

直接対面授業

遠隔対面授業（通信制では遠隔面接）
（直接対面面接指導の再構築）

ICTの活用による融合型

非対面式

校外（病院や自宅等）におけるオンデマンド個別視聴 等

授業形態から見た遠隔授業の仕組み

授業形態

北海道有朋高等学校

直接対面授業形態

★ 基本的に、教師と生徒が同一空間で直接、学習活動を行う場合を「直接対面」方式の授業形態と考える。

(例)

- ・教室、体育館など、校舎内での授業
- ・教師と生徒が一緒に出かけて行う校外学習

■ 授業方式の工夫改善

- ・一斉講義
- ・体験活動の取組
- ・グループ学習（討論、調査、実験、発表 等）の充実

授業内容の改善の視点等

- VTRやIT教材、オンデマンド教材などを含めたICTの活用による授業内容の工夫改善
- プリント、板書、実物投影機などの活用の工夫による授業内容の工夫改善
- 教師の授業パフォーマンスの工夫改善

(全日制の場合)

単位認定

(1単位時間：50分)
(35単位時間：1単位)

卒業

(74単位の修得が必要)

遠隔対面授業形態

★ 教師と生徒が遠距離にありながら、モニター等を通じて、同時双方向で対面して行う場合を「遠隔対面」方式の授業形態と考える。

(例)

- ・礼文高校と有朋高校を直接双方向で結んで行う授業

■ 同期型、非同期型、融合型も「遠隔」方式として検討することが必要。

■ 「直接対面」の再現ではなく、授業の再構築という視点が必要。

×

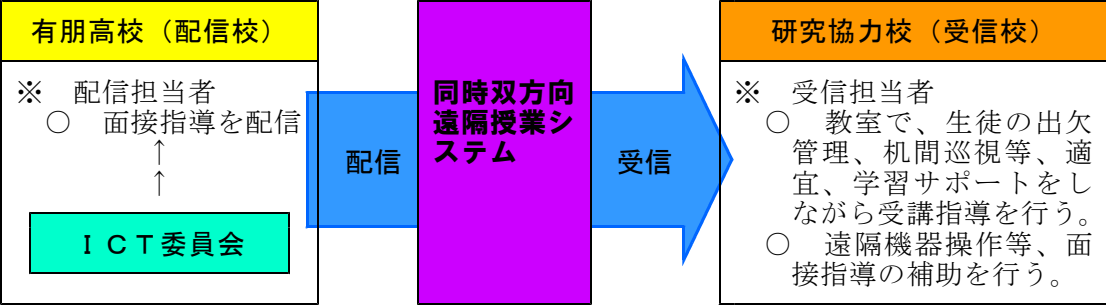
※研究開発学校において、この縛りを外して実践研究→本当に単位認定は可能か。

平成26年度研究開発実施計画（概要）

<研究方法>

地歴・公民など複数の教科・科目において、学習指導要領第7款の面接指導免除時間数の規定（メディア毎に10分の6、合計で10分の8）を超えて**遠隔面接を実施し、評価を行い、単位の履修や修得を認定**する。

○ 面接指導配信の仕組み

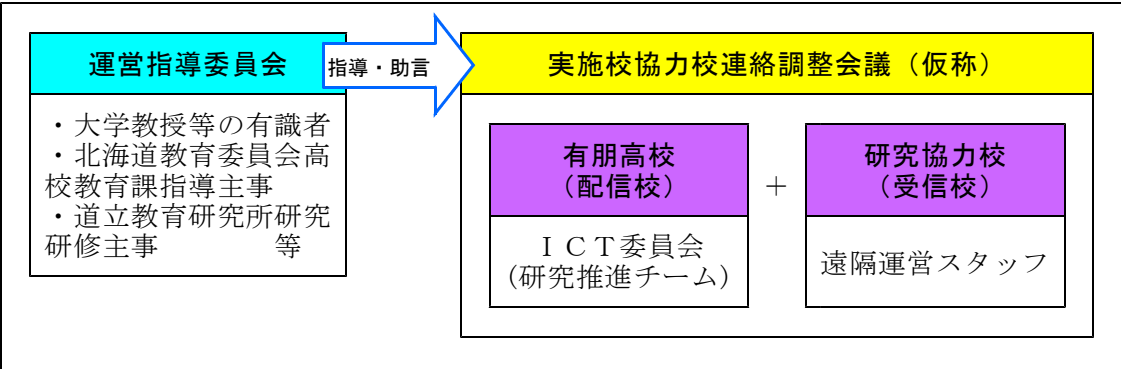


○ 遠隔面接指導を行う教科・科目 (H26年度計画)

研究テーマ	【A研究】	【B研究】	【C研究】
研究協力校	●デジタルコンテンツとの組合せ	●反転授業との組合せ	●遠隔マニュアル作成
中標津	「世界史B」		「化学基礎」
富良野	「世界史B」		「社会と情報」
稚内		「地学基礎」	「社会と情報」

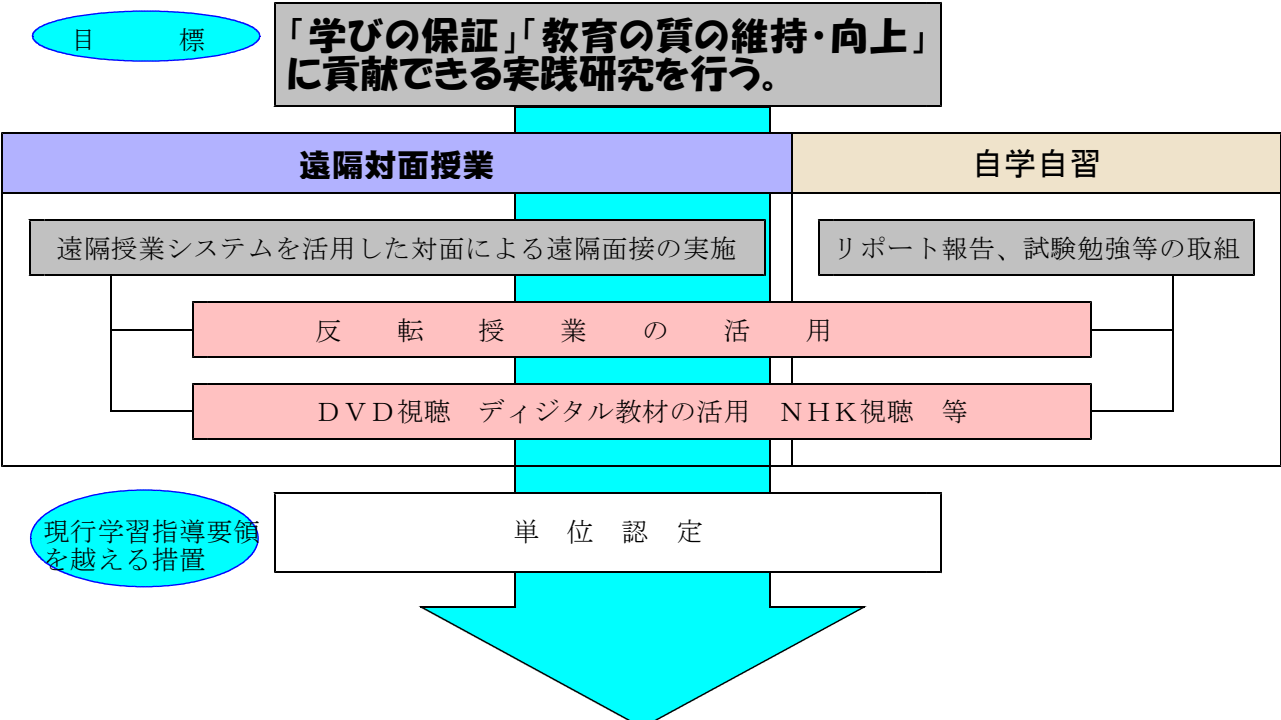
- ※ 研究開発の実際
- (ア) デジタルコンテンツ開発に当たっては、「遠隔面接」に活用するICT教材として開発を行う。
 - (イ) 反転授業を取り入れた「遠隔面接」に当たっては、既存の放送教材等の活用を図るとともに、自作のVTR教材の開発を行う。
 - (ウ) 「遠隔面接」のマニュアル作成に当たっては、配信教諭と受信側サポート教諭との役割分担の明確化を行い、また、配信、受信双方の科目ごとの特性に応じた授業技術の向上のための研修を行うとともに、「遠隔面接」に対する生徒の適応状況の確認を行いながら、実践研究を行う。
 - (エ) 「面接指導」の全部を「遠隔面接」によって代替することについて、通信教育における10分の2の直接面接の必要性と意義を踏まえて、全部代替の効果、課題等と比較検証し、分析を行う。

○ 研究組織



<研究の構造>

◎本校の研究：遠隔対面授業を活用した新たな学習システムの構築◎



<期待される可能性>

- (1) 配信による可能性
 - 遠隔授業システムを活用した同時双方向の遠隔面接を配信する。 → 報告課題（レポート）による自学自習との関連を深めることができる面接指導が期待でき、対面式の面接指導と同様の効果を生み出すことが可能となる。
- (2) 科目設置による可能性
 - 小規模な通信教育協力校での面接指導講師による科目のほかに、遠隔面接による科目を設置する。 → 生徒の学習ニーズに対応した、幅広い科目を設置することができ、当該協力校の教員による面接指導科目数を超えた、いわばワイドなカリキュラムの編成が可能になり、小規模な通信教育協力校教育課程を充実させることが可能となる。
- (3) 単位認定による可能性
 - 当該の通信教育協力校に面接指導講師がいなくても、遠隔授業システムによる遠隔面接によって単位認定できる科目を開設する。 → 郡部の通信教育における質の向上に貢献でき、教育の機会均等を柱とした学びの保証が可能となる。
- (4) 遠隔面接に取り組む教員の資質能力向上の可能性
 - これまでとは異なる学習形態に取り組む。 → 面接指導者の新たなコミュニケーション能力の開発など、教員のスキルアップを図ることが可能となる。

↓
地理的、時間的制約のない自由な学びの実現

「遠隔教育」は、多様性と共通性を支える要石

- **多様性**: 有朋高校(通信制+単位制による定時制(三部制))は、あらゆる弾力的取扱いを実施

<通信制>

- 協力校制度
- 定通併修・単通併修
- 科目履修生の受け入れ
- 技能連携教育の取組
- 実施校スクーリング及び校外スクーリングの実施

<単位制>

- 単通併修
- 3部制(どの時間帯も履修可能)
- 科目履修生の受け入れ

「遠隔教育」は、多様性と共通性を支える要石

- 通信制における**共通性**

- 協力校制度の活用

- 協力校に求められる共通性(例)

- 広域な北海道に32校を配置 → 教育の機会の確保
 - 実施校に協力校生徒の担任を配置 → HR環境の共通性を担保
 - スクーリングの工夫

実施校でのスクーリング
地域ごとでのスクーリング
実施校が行う校外スクーリング

 → 面接機会の確保

多様性と共通性を支える「遠隔教育」の考え方

- 本校の「遠隔教育」の実践研究においては、
「遠隔対面面接」を活用した新たな学習システムの構築にむけての第一歩を進めようとしている。
- 本実践研究においては、
「協力校における学びの保証」「教育の質の維持・向上」に貢献できる研究を進めたいと考えている。

多様性と共通性を支える「遠隔教育」の考え方

■ 通信教育における学び方の柱

○ レポート ⇔ 面接(スクーリング) + 試験 = 履修・修得の認定



自学自習が学びの原則 → この学びの支援 = スクーリング

※ スクーリングとレポートをつなぐ遠隔面接の構築を目指したい

<研究方法>

地歴・公民など複数の教科・科目において、学習指導要領第7款の面接指導免除時間数の規定（メディア毎に10分の6、合計で10分の8）を超えて遠隔面接を実施し、評価を行い、単位の履修や修得を認定する。

具体的実践研究方法等

<遠隔面接配信の仕組み>

